

市町村名	嘉手納町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	観光プロモーション事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部署名	産業環境課	事業実施(予定)年度	令和3年度~14年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光プロモーションツール等を有効活用し、観光関連イベント等においてプロモーションツール活動を行い、観光客の誘客を図った。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(令和 年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	13,925	13,294			
		(b)予算現額	11,348	13,294			
		(c)増減額(b-a)	-2,577	0	0	0	0
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	11,348	13,294	0	0	0
		B.執行済額	10985	11207			
		うち交付金充当額	8788	8965			
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	96.8%	84.3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明	公募型プロポーザルにより委託先の選定を行った。不用額2,088千円については、プロモーション活動におけるイベント出展において、ブース装飾等の経費が低くなったことによる不用額である。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	観光PRイベントへの参加(3回)	目標	()	(3回)	()	()	
		実績		3回			
	【R3活動目標】 観光パンフレット、PR映像、ポスターの制作	目標	(制作)	()	()	()	
実績			完了				
達成状況説明	当初活動目標として、観光PRイベントへの参加を年3回としており、計画通りのイベントへ参加ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(R年度)
	【R4成果目標】 町入域観光客数、792千人以上	目標	()	()	(792千人)	()	()
		実績			550千人		
	【R3成果目標】 観光パンフレット、PR映像、ポスターの完成	目標	()	(完成)	()	()	()
		実績		完成			
進捗状況説明	令和4年度の入域観光客数を792千人以上と設定していたが、実績としては約550千人となり目標には届かなかった。						

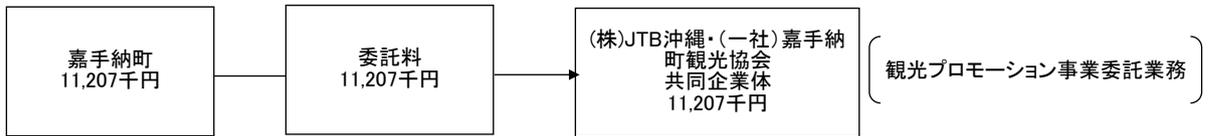
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度も新型コロナウイルスの影響が依然として残っており、その影響による入域観光客数が伸び悩んだため、目標数には届かなかった。 観光施設へ来訪の際、来場者より場所がわかりにくい等の声があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度においては、目標値に届かなかったため、その目標値を令和5年度においても設定し、その目標を達成するため、引き続きプロモーション活動を行う。 令和5年度は、制作したプロモーションツールの効果的な活用だけでなく、物販等でのプロモーション活動も検討する必要がある。 観光客の利便性確保のため、誘導案内板等の設置を検討する必要がある。 紙媒体だけではなくSNSなどのインターネットを活用し、本町はもとより、沖縄に来訪しなくても情報を手に入れられるような情報発信方法を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

- 令和5年度より、観光協会への補助金として支出し、創意工夫を最大限に行ってもらい、観光イベントへ積極的に出展を行い、ガイドブックの配布等のプロモーション活動を行う。
- 誘導案内板等を整備し、観光客の利便性を確保する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
11,207	11,207	8,965	2,242	



資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託事業者は公募型プロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額については、仕様の変更により事業費の約20%となっていたため、今後改善を要する必要がある。 ○費用、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-②	嘉手納町移民パネル製作事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(2)-ア		
担当部署名	企画財政課	事業実施(予定)年度	令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展 Ⅲ-3-(2)	
事業内容	沖縄県は日本有数の移民県である。戦前・戦後を通じて世界へ雄飛したウチナーンチュは多くの苦難の時代を乗り越え、移住先にしっかりと定着し、各国社会の政治、経済、文化、学術等あらゆる方面で活躍している。ウチナーネットワーク持続的に継承・発展させるため、嘉手納町から世界各国へ移住したカテナンチュの歴史をパネルに分かりやすくまとめ、学校施設や町立図書館でパネル展を開催し、沖縄の歴史や世界に興味を持ってもらう機会を設ける必要がある。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R4年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,509			
		(b) 予算現額	2,508			
		(c) 増減額(b-a)	-1	0	0	0
		(d) 繰越額				0
	A. 計(b+d)		2,508	0	0	0
	B. 執行済額		2508			
	うち交付金充当額		2006			
	次年度繰越額					0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		公募型プロポーザルによる契約を行った。当初の計画通り、パネル15枚を制作し、予算の執行を行った。				
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況			
			R4年度			
	パネル制作 15枚	目標	(15枚)	()	()	()
		実績	15枚			
	パネル展の実施	目標	(実施)	()	()	()
		実績	実施			
達成状況説明	パネルを15枚製作し、パネル展を実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度		目標値(年度)
	アンケート実施:世界のウチナーンチュについての理解度	目標	()	(80%以上)	()	()
		実績		80%		
		目標	()	()	()	()
		実績				
	進捗状況説明	パネル展を開催し、アンケートを実施した、世界のウチナーンチュについて80%の理解度を得た。				

市町村名	嘉手納町
------	------

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	学習支援員配置事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア
担当部署名	教育指導課	事業実施(予定)年度 平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)

事業内容
児童生徒の学力向上を図るため、教師と連携を図りながらチームティーチングを行うとともに、夏休み等に個別指導や放課後の補習授業を行う学習支援員を小中学校に配置した。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	13,221	13,226	17,983	17,421	21,458
	(b) 予算現額	12,599	12,935	16,017	14,442	24,549
	(c) 増減額(b-a)	▲ 622	▲ 291	▲ 1,966	▲ 2,979	3,091
	(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	12,599	12,935	16,017	14,442	24,549
	B. 執行済額	11,827	11,242	16,017	14,442	24,306
	うち交付金充当額	9,461	8,993	12,048	11,553	19,445
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	93.9%	86.9%	100.0%	100.0%	99.0%
予算の状況の説明	予算の執行については、適切に管理している。 小学校において合計12ヶ月の不在期間があった為、不用額が発生した。					

活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		学習支援員配置数 小学校:6人 中学校:3人	目標	(小学校4人 中学校1人)	(小学校4人 中学校2人)	(小学校4人 中学校2人)
	実績	小学校4人 中学校1人	小学校4人 中学校2人	小学校4人 中学校2人	小学校6人 中学校3人	
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員を本町小学校に6名(各学校3名)、中学校に3名配置した。 ・小学校においては、学級担任とのチームティーチングとして個別の対応や放課後の補習指導を行った。 ・中学校においては、学習内容の定着が十分でない生徒を対象に、学級内で個別のチームティーチングを通じての学習支援や放課後(毎週月、水)、長期休業中の補習、数学検定対策講座をおこなった。 ※チームティーチング:複数の教職員が役割を分担し、協力し合いながら指導する方法。 					

成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)		
		沖縄県学力到達度調査において、県と本町との平均正答率の差	目標	()	(小:-4.4 中:-9.3)	(小:-4.1 中:-7.5)	(小:-0.5 中:-7.1)	()
		小学校:-0.5ポイント以上 中学校:-7.1ポイント以上	実績		小:-0.1 中:-7.4	小:+5.1 中:-3.8	小:+4.4 中:-3.7	
			目標	()	()	()	()	
	実績							
進捗状況説明	令和4年度沖縄県到達度調査の県平均と比較すると、小中どちらも目標値を達成することができた。 令和4年度 沖縄県到達度調査(2月)の結果 ○小学校...小5算数:県平均48.5%、本町52.9%【+4.4ポイント】 ○中学校...中2数学:県平均43.1%、本町39.4%【-3.7ポイント】 学習支援員と管理職が支援の在り方を共有することができた。							

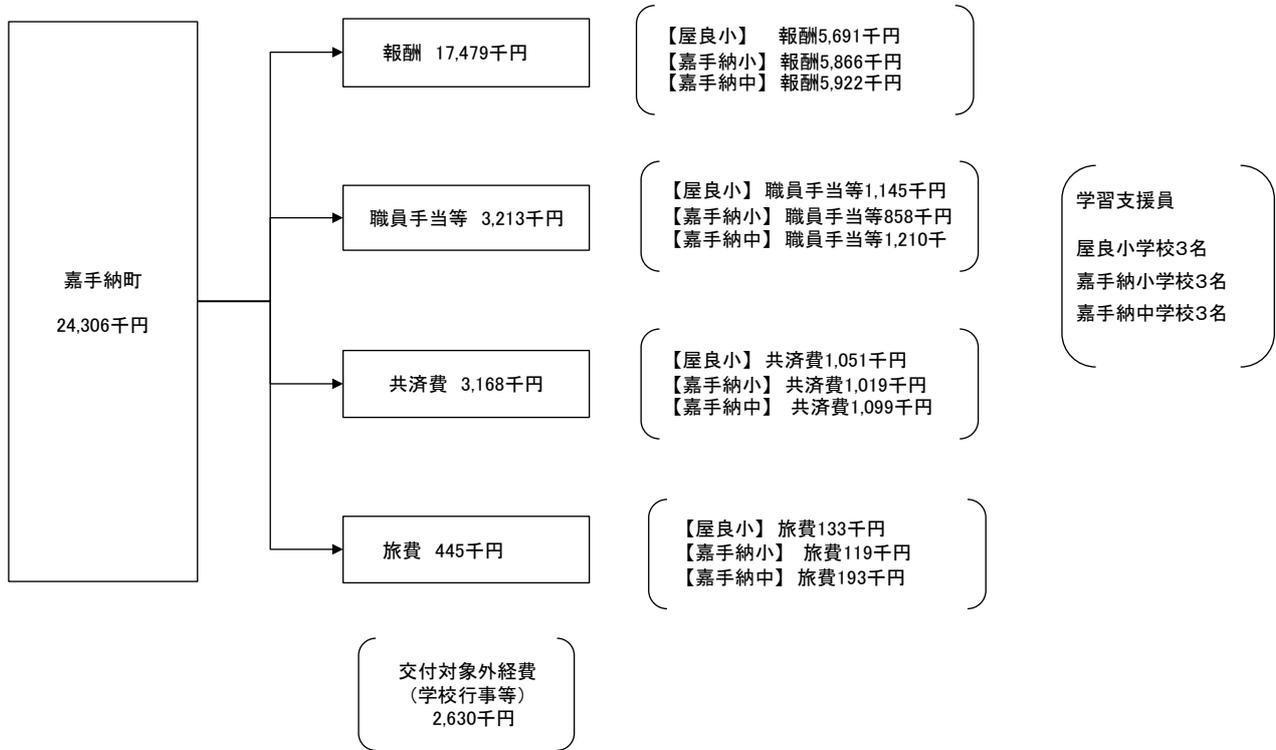
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①小学校においては、+4.4と県平均を上回り、目標を達成した。学級担任が授業を進めながら、学習支援員が対象児童を1箇所に集めて、児童にあった丁寧な個別指導を行う体制が整った。また、給食時間や放課後等の隙間時間を活用し、学習支援が個別に対象児童の補習にあたった。</p> <p>②中学校においても年々生徒の補習の在り方や対象生徒の洗い出し等工夫や改善を行い、補習を対象生徒のみだけでなく、生徒が自主的に参加するように掲示や開催を促す案内状を作成し配布するなどしたことで、補習に参加する生徒が夏休みも徐々に増えていった。</p>	<p>①学習支援員の役割、授業における役割の共通確認を強化し、対象児童生徒を明確化する事で、年々成果が出ている。さらに、小学校同士の効果的な取組の紹介等を行うなど行っていく。</p> <p>②これまでの取組で効果があった取組の継続と、中学校においては取組を1年間を通してコツコツ繰り返し取り組んできた成果が出たので継続と、新しく配置された支援員への確実な実践の情報共有を行う。</p>

今後の取り組み方針

- ①学習支援員の役割の明確化、授業時の児童生徒への支援の在り方等管理職、教科、学級担任と連携し共有する場を年2回実施する。
- ②教育委員会が担当教諭、管理職と学習支援員の活用について協議の場を設け、学習支援員と役割、対象者、運用にあたっての前年度、今年度の課題について協議し、学習支援員との情報共有の場連絡会を設け指導体制の統一を図る。
- ③前年度しっかり定着してきた、補習や隙間時間を活用しての取組において、定着が不十分な児童生徒、学習に不安をもつ児童生徒への補習を継続して個に応じた指導を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
26,936	24,306	19,445	4,861	2,630



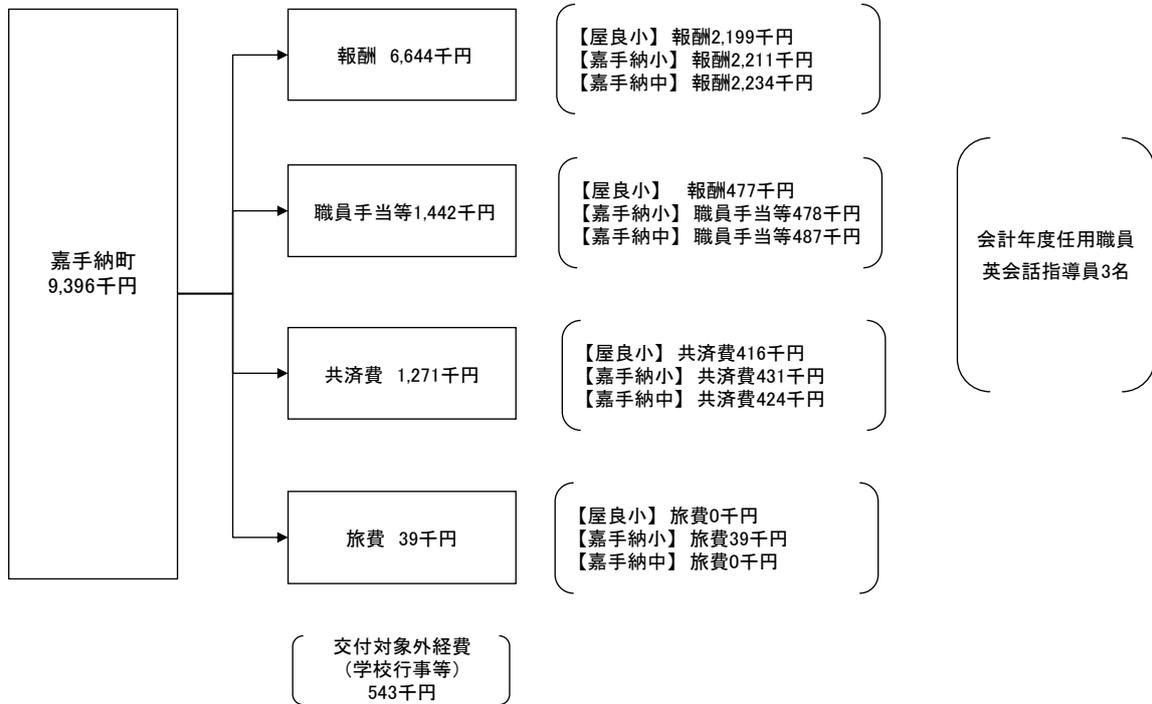
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。 ○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。 ○費目・用途については、報酬と共済費のみであり、支援配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-②	英語力強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア		
	担当部署名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進		
事業内容	教育課程特例校として小学校では英語に親しむ環境をつくり、中学校は実用的な英語を学ぶため、英会話指導員を配置し、同時に中学校は個別の学習支援、英会話の実践化のための英語指導員を配置し、児童生徒の英語への興味・関心を高め、英語力向上を図る。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
		(a) 当初予算額	18,074	18,277	13,358	12,371	8,841	
	(b) 予算現額	16,919	17,686	12,179	9,497	9,502		
	(c) 増減額(b-a)	▲ 1,155	▲ 591	▲ 1,179	▲ 2,874	661		
	(d) 繰越額							
	A. 計(b+d)	16,919	17,686	12,179	9,497	9,502		
	B. 執行済額	16,288	15,636	12,179	9,455	9,396		
	うち交付金充当額	13,030	12,508	9,127	7,563	7,517		
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)	96.3%	88.4%	100.0%	99.6%	98.9%		
予算の状況の説明	予算の執行については、適切に管理している。							
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	英会話指導員配置数 小学校2人、中学校1人	目標	(小学校3人 中学校2人)	(小学校3人 中学校1人)	(小学校2人 中学校1人)	(小学校2人 中学校1人)		
		実績	小学校3人 中学校2人	小学校3人 中学校1人	小学校2人 中学校1人	小学校2人 中学校1人		
			目標	()	()	()	()	
		実績						
達成状況説明	英会話指導員(ALT)を小学校2名、中学校1名配置した。 小学校では、学級担任とALT,英語指導員とで連携し外国語の授業及び外国語活動の展開している。 中学校では、担当教師とALT,英語指導員で、英会話の授業を展開している。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
			目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
	英語に対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、本人のアンケートにより、本事業のあり方を検証する。		実績		75%	80%	82%	
			目標	()	()	()	()	()
			実績					
進捗状況説明	・小学校において、児童のアンケートで「1,2年生において「英会話の授業は好きですか」「これからも英語をもっとべんきょうしたいですか」の項目で90%の児童がはいと答えている。また、小学校3,4年生においても興味関心を問う質問項目では85%以上の児童がはいと答え、数値目標を達成した。 ・小学校において、「英語で自分の考えを話す・聞く」「英語で自分の考えを書いたり、読んだりすることへの意欲においては80%以上が肯定的に回答している。 ・中学校においては、「英語で自分の考えを話す・聞く」「英語で自分の考えを書いたり、読んだりすることへの意欲においては80%以上の生徒が肯定的に回答し目標を達成した。 ・中学校において、「コミュニケーションをとることへの意欲は高いが、学校以外で、英語を使う機会やコミュニケーションをとる機会は依然として少ない傾向がある。							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校のアンケート結果から、英語に関する興味関心は、前年度の80%から82%とさらに向上している。 ・特に、小学校低学年において、英会話指導員が日々の授業において英語教材に工夫を凝らし、担任と連携し児童の英語に対する興味関心が高まるような教材作成により児童が英語の授業を楽しく学ぶ環境が充実できていたことが意欲の向上につながった。 ・今年度までは、コロナ禍の影響は徐々に緩和され、英語を話す、活用する授業が後半充実できていた。英会話指導員も小中で意見交換する場を持つことができた。 ・どうしても学校の授業以外での英語の活用は、小学校、中学校ともに依然として肯定的な数値は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校で連携した英語授業改善研修会をしっかりと行い、英会話指導員と英語担当教師の連携を行い、小中で取り組める授業改善により、児童生徒が英語に親しむ環境づくりを行う。 ・英会話指導員は、担当教諭と更に連携を図り授業の中で、「英会話」を実践し児童生徒が実際に活用(アウトプット)する場面(授業)づくりを行う。 ・英語アンケートを担当教諭と見直しを図ることで児童生徒につけたい力の確認ができたので令和5年度も共有を図る。
	今後の取り組み方針	
<p>①効果的な授業方法づくりのために、小中学校英会話指導員と英語担当教諭を対象とした「外国語授業改善研修会」を今年度は予定回数実施する。</p> <p>②「外国語授業改善研修会」の中で、授業づくりと児童生徒が授業以外の会話をするための場面設定や課題など共通で確認し意図的に英語の活用について達成を図る。</p> <p>③英語アンケートの英語アンケートを担当教諭と見直しを図ることで児童生徒につけたい力の確認ができたので令和5年度も共有を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
9,939	9,396	7,517	1,879	543



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。 ○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。 ○費目・用途については、報酬と共済費、旅費のみであり、指導員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	生徒指導強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ	
担当部署名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	不登校の生徒に対して家庭や関係機関と連携を図りながら特別な支援をしていくことで、学校復帰等の不登校の改善を図るため、指導支援員を配置した。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		3,540	3,541	2,194	2,341	4,908
			3,151	3,566	2,152	2,300	5,701
			▲ 389	25	▲ 42	▲ 41	793
			3,151	3,566	2,152	2,300	5,701
	B. 執行済額 うち交付金充当額		3,151	3,565	2,148	2,100	5,646
			2,520	2,852	1,622	1,679	4,517
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	99.8%	91.3%	99.0%
	予算の状況の説明	予算の執行については、適切に管理している。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	生徒指導支援員配置数 中学校:1人 スクールソーシャルワーカー(SSW)配置数 教育委員会:1人		目標 (中学校2人)	(中学校1人)	(中学校1人)	中学校1人 (教育委員会1人)	
			実績 中学校1人	中学校1人	中学校1人	中学校1人 教育委員会1人	
		目標 ()	()	()	()		
		実績					
達成状況説明	不登校生徒や長期欠席者等の早期支援や未然防止等の支援の充実を図るために中学校へ生徒指導支援員を配置した。また、問題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒が置かれた環境へ働き掛けたり、関係機関等とのネットワークを構築するために教育委員会へスクールソーシャルワーカー(SSW)を配置し登校しても学級へ復帰できていない生徒に対して校内での居場所づくり、学習支援等の支援を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	不登校出現率		目標 ()	(2.2%以下)	(2.3%以下)	(2.6%以下)	()
			実績	2.3%	2.1%	2.50%	
			目標 ()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	令和4年3月末の不登校生徒数は、中学1年生(6名)、中学2年生(1名)、中学3年生(4名)の計11名で年間を通した数値での出現率は2.5%(3月時点で生徒数445名)となり、目標値より-1.0で目標を達成している。 不登校生徒のうち、2名は登校復帰の兆しが見られたが、長期休暇明け再度登校できなくなった。令和4年度の新規不登校は6名と新たな不登校が中学1年生で4名いた。 理由なし欠席3日以上の子供への家庭訪問や欠席が続く生徒の定期的な家庭訪問等登校支援ができた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①不登校生徒の要因として「無気力」や、1、2年生においては、「コロナ不安」から継続しての欠席から不登校へつながる生徒が4名いた。「迎えにいったり強く催促すると登校するが長続きしない」等での無気力の傾向が多く見られる。 ②不登校の解決に向けて生徒の家庭、学校との関係作りが重要である。 ③学校へ登校したときに居場所が十分に確保できていない。 ④不登校対策生徒支援員がしばらく欠員になってしまい、生徒の支援を担当生徒指導主任、SSWで行う時期があり人手不足となり十分な支援が行えない時期があった。	①無気力傾向の不登校の解決に向けては、SSWや諸機関と共同で成功体験による自己肯定感を高める体験活動等について研究を行い、内容を充実させる必要がある。 ②学校から家庭との連絡を密にするなど、生徒に対する家庭との連携の強化を図るとともに、SSWとの生徒に関する情報交換・共有を密にした内容を踏まえた家庭との関係作り、生徒指導支援員、相互の関係づくりを深めていく。 ③学校へ登校してきたが、まだ教室へ復帰できない生徒の居場所を確保し、その際の支援を充実させる必要がある。
	今後の取り組み方針	
①学校内や関係機関、SSWや関係機関(適応指導教室)と連携した体験活動の場の構築やそれに係る支援を行う。 ②不登校生徒の家庭との連絡を密にするため、生徒指導支援員とSSWとの情報共有連携の強化を図り家庭訪問や登校支援を充実させる。 ③理由なし欠席3日以上の子供への家庭訪問の確実な実施と生徒の実態に応じたSSWからの情報による定期的な家庭訪問の実施等登校支援を充実させる。 ④登校してきたが教室へ入れない生徒に対して教室以外の場所を確保し、対象生徒に合わせた教室復帰にむけた学習支援、体験活動、教育相談などの支援を充実させる。 ⑤不登校支援員の確実な人員確保に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	5,646	5,646	4,517	1,129	0
<pre> graph LR A[嘉手納町 5,646千円] --> B[報酬4,097千円] A --> C[職員手当等779千円] A --> D[共済費713千円] A --> E[旅費57千円] A --> F[交付対象外経費 (学校行事等) 0千円] C --> G["不登校対策生徒指導支援員1名 SSWスクールソーシャルワーカー 1名"] E --> G </pre>					

資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。 ○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。 ○費目・用途については、報酬と共済費、旅費のみであり、指導員配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ	
担当部署名	教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進		
事業内容	発達障害等により特別な支援を要する児童生徒に対し、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、町内の各小中学校に特別支援教育支援員(教育サポーター、介助員)を配置した。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		45,459	43,306	38,129	37,186	27,644	
		36,929	34,247	32,924	27,535	25,867	
		▲ 8,530	▲ 9,059	▲ 5,205	▲ 9,651	-1,777	
		36,929	34,247	32,924	27,535	25,867	
		34,162	31,448	32,805	27,361	25,275	
		27,329	25,158	24,815	21,888	20,220	
		92.5%	91.8%	99.6%	99.4%	97.7%	
予算の状況の説明	一部の雇用者で欠勤が生じた。小学校と中学校において合計19ヶ月の不在期間があった為、不用額が発生した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	特別支援教育支援員配置数 小学校:13人、中学校:4人	目標	(小学校16人 中学校7人)	(小学校13人 中学校5人)	(小学校13人 中学校5人)	(小学校13人 中学校4人)	
		実績	小学校15人 中学校6人	小学校13人 中学校5人	小学校13人 中学校3人	小学校14人 中学校5人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	小学校においては目標数の14名の特別支援員を配置に対し、合計12ヶ月の不在期間があった。また中学校においては目標の5人の配置に対し合計7ヶ月の不在期間があった。特別支援対象児童生徒(中学校28名、小学校64名)に対して不在期間においては十分な支援を行うことができなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	対象となる児童・生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		82%	90%	85%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	対象となる児童生徒の保護者に対し、支援員の配置によって子どもの学校生活や学習上の困り感が改善されたかについてアンケートを実施したところ、「改善された」「どちらかというと改善された」の数値の合計が85%となり、目標を達成した。研修会を開催し講師より助言を貰うだけでなく支援員がお互いに意見交換しスキルアップに繋がることができた。						

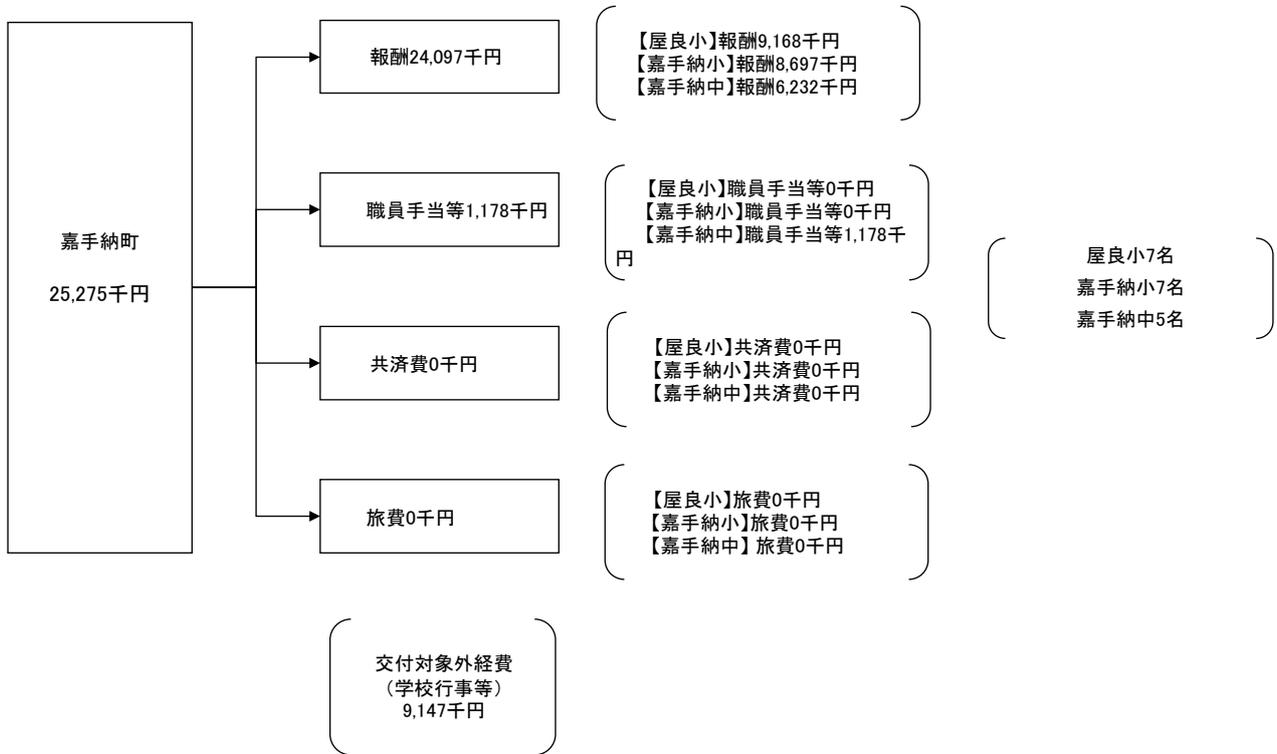
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①アンケートの記述欄には、教育サポーターの関わりについて概ね肯定的な内容が記されていた。今後の支援に係る要望として「サポーターの方との情報共有の場、支援についての内容」など面談を希望する要望、「子ども達の自立を促すための支援」があげられた。 ②毎年度数人サポーターが新規採用となり子供たちへの対応能力に差がある。	①子ども達が自立した学校生活を送ることができることを最終目標に、実態に合わせた適切な支援方法について、支援員のスキルアップを図る必要がある。 ②新規採用のサポーターの方のスキルアップだけでなく、勤務している時間は学校内では情報共有が難しい点もあるので研修会以外での、サポーターによる連絡や情報共有する場の提供も必要である。 ③児童生徒の成長と共に、支援状況はたえず変化するので、継続して支援員個々のスキルアップのために、昨年度に引き続き研修会を実施し、さらに協議の場を設ける必要がある。

今後の取り組み方針

- ①研修会では「サポーターとしての役割」特に、「自立を促す支援」について協議を深めるとともに、講師による課題レポートへの助言を通して、支援員の資質能力や意欲向上を図る。
 ②支援員個々のスキルアップのための年に6回の研修を今年度も実施し、また、新年度サポーターの役割の「講演会」を実施することでどの対象児も満足する支援を受けられるようにする。
 ③サポーターが数人新規採用となるため教育委員会が主となり、ベテランサポーターや新規サポーターの困り感や子供たちへの対応・理解などお互いに情報交換アドバイス協議ができる場を設定しスキルアップに繋げる。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
34,422	25,275	20,220	5,055	9,147



資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は嘉手納町会計年度任用職員の給与等に関する条例に基づき採用した。 ○予算規模についても同条例に基づき算定しており、適正であった。 ○費目・用途については、報酬と共済費、旅費のみであり、支援配置事業に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	嘉手納町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	雇用促進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ア	
担当部署名	産業環境課	事業実施 (予定)年度	平成25～令和4年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援		
事業内容	就職相談窓口を開設し、就労支援を行うことで、新規就労者の増加を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,306	3,298	2,381	2,424	2,381
		(b) 予算現額	3,306	3,257	2,381	2,410	2,381
		(c) 増減額(b-a)	0	-41	0	-14	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		3,306	3,257	2,381	2,410	2,381
	B. 執行済額		3,281	3,256	2,381	2,410	2,381
	うち交付金充当額		2,625	2,604	1,903	1,928	1,904
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		99.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行を行った。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	相談窓口開設(毎週火・金曜日) 90日		目標 (92日)	(90日)	(93日)	(90日)	
			実績 92日	90日	92日	90日	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	計画通り実施し、目標を達成することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	相談者のうち、就職が決まった人数		目標 ()	(8人)	(8人)	(10人)	()
			実績	10人	7人	10人	
	【参考指標】 相談者のうち、就職が決まった人数の割合		目標 ()	(4.5%)	(3.4%)	(3.0%)	()
			実績	3.3%	2.0%	3.9%	
進捗状況説明	・嘉手納町民の利用人数は延べ257人で、全体の66%であった。 ・就職した人数は10人で前年と比べ3人増となり、その割合は3.9%で両目標とも達成となった。 ・後追い調査ができた人数に対する就職率は40%で、前年比+19.4ポイントとなった。						

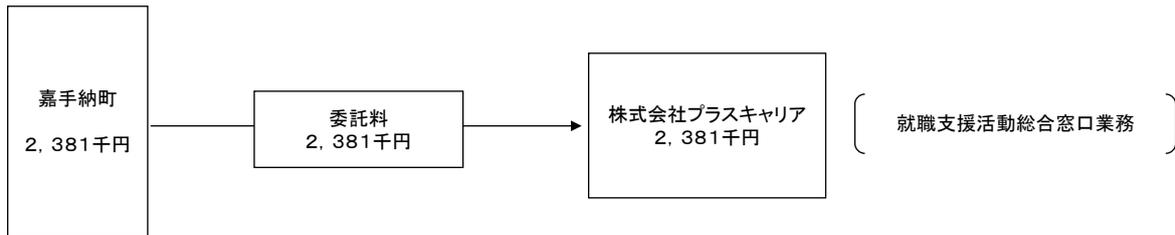
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・アンケート調査において、本事業を知った経緯のうち、最も多かったのは役場訪問時で42.3%(町内:40.8%)、続いて広報誌が17.4%(町内:23%)であったことがわかった。</p> <p>また、相談内容で最も多かったのは「自分に合う仕事」についてで、50.3%(町内:56.4%)であった。</p>	<p>・役場訪問時を除くと、紙媒体での周知が主となるが、継続利用者だけではなく新規相談者を取り込めるよう文言等を改善する必要があると考える。また、SNSを活用した周知方法を検討する必要がある。</p> <p>・新規相談者を取り込めるよう、紙媒体による事業周知において、ガイダンスツールに関する文言等を改善する必要があると考える。</p> <p>・より多くの後追い調査が行えるよう、引き続き調査方法の検討・改善が必要である。</p>
	<p>・相談分析において、新たに導入したガイダンスツール(カラーワーク)が相談の入り口としての活用も有効的であり、また、就職活動が長期化している方や自分に合う仕事について不安や悩みを抱えている方に対して好評であることがわかった。</p>	
	<p>・相談分析において、コロナの影響で控えていた企業の採用活動が少しずつ回復してきたため、失業保険等の延長で就活を休止していた方も就職活動を再開していることがわかった。</p>	

今後の取り組み方針

- ・本町発信のSNS(LINE)において、メッセージ機能・タイムライン機能を用いて本事業の周知を行う。
- ・就職者数及び就職率の向上に向け、より多くの後追い調査が行えるような実施方法の検討。
- ・新規相談者の関心を集めるための効果的な文言の検討及び新たなガイダンスツールの導入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

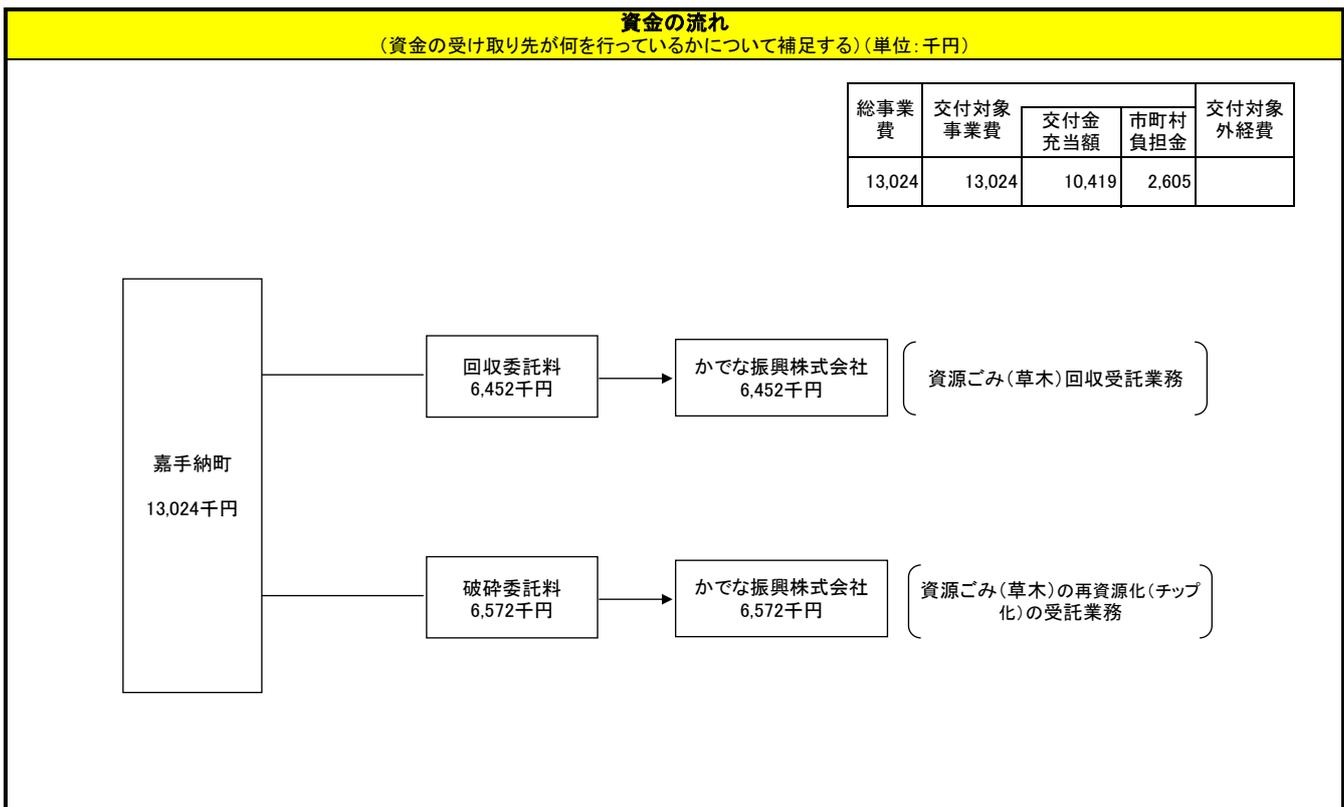
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,381	2,381	1,904	477	



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、執行率95%以上であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		嘉手納町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	廃棄物リサイクル事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ア	
担当部署名	産業環境課	事業実施(予定)年度	平成25～令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	脱炭素島しょ社会の実現に向けたエネルギー施策の推進		
事業内容	ごみの排出量を削減し、ゴミ処理施設及び最終処分場の長寿命化を図るため、本町で排出される草木を回収、チップ化し、再資源化を行った。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,928	13,837	13,393	13,437	13,827
		(b) 予算現額	12,376	13,404	16,582	13,093	14,207
		(c) 増減額(b-a)	448	-433	3,189	-344	380
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		12,376	13,404	16,582	13,093	14,207
	B. 執行済額		12,384	13,026	15,228	12,051	13,024
	うち交付金充当額		9,907	10,420	12,183	9,641	10,418
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.1%	97.2%	91.8%	92.0%	91.7%
予算の状況の説明		入札による単価額の減少もあり、年度後半で減額補正も検討しましたが、大量の樹木搬入予定がある旨の報告を受けたため実施しなかったが、結果的に搬入された草木ごみが見込量を下回ったため、執行率91.7%となりました。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施	目標	(草木の回収及び再資源化の実施)	(草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施)	(草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施)	(草木の回収及び再資源化(チップ化)の実施)	
		実績	全草木ごみの再資源化済	全草木ごみの再資源化済	全草木ごみの再資源化済	全草木ごみの再資源化済	
			目標	()	()	()	()
			実績				
達成状況説明	令和4年度の町全体の可燃ごみの17.69%の再資源化を達成しました。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	草木の再資源化(草木ゴミの処理量)854t以上/年	目標	()	(616.8t以上)	(665t以上)	(854t以上)	()
		実績		799.42t	708.8t	784.8t	
			目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	搬入された草木ごみは全て再資源化することが出来たが、目標値に比して搬入量が少ない結果(実績)となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の経年劣化による燃料に対する破碎量の比率の低下が懸念される。 ・令和4年度上半期は燃料販売価格が高騰したりと不安定な状況にありましたが、下半期は落ち着きが見られた。しかしながら、いつ同様な状況になるかわからない。 ・成果目標を機器の破碎可能量(年間稼働可能時間より算出)としているが、搬入量がその量を下回っているため目標達成となっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な商品の価格上昇が続いており、機器の修繕も例外ではなくメーカー側から令和5年度以降の修繕から価格を増額する旨の申し出がありました。定期メンテナンス時に「まだまだ使用可能」との回答を得られているため、更新時期を先延ばし、修繕を施しながら使用することとします。 ・燃料の価格高騰は社会情勢に影響されるものであるため、契約時の状況からの変化に応じて契約単価を見直す変更契約も可能とする契約項目を検討する必要があるのか、契約相手との調整も必要があると考えます。 ・昨年度より、数量は上がっているものの、成果目標に関して設定方法等の考え方を再検討する。
今後の取り組み方針		
<p>これまで培われてきた破碎技術の情報の共有や、機材の修繕による稼働不可の時間を増やさないように、機材の状況の情報共有など受託事業者と連絡を密にとり、持続可能な事業実施に努めます。</p>		



資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・回収業務は町内受託可能業者1社より徴した見積書と予定価格との比較による随意契約、破碎業務は入札により支出先の選定を実施しており、妥当であると考えております。 ・回収業務は一般廃棄物収集業務と比較し、破碎業務は本町で処分せず民間に持ち込んだ場合の処理経費と比較し、予算規模につきましても妥当性を確認しております。 ・費目・用途については、毎月精算を実施しており、目的に即し、必要なものであったと確認しました。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

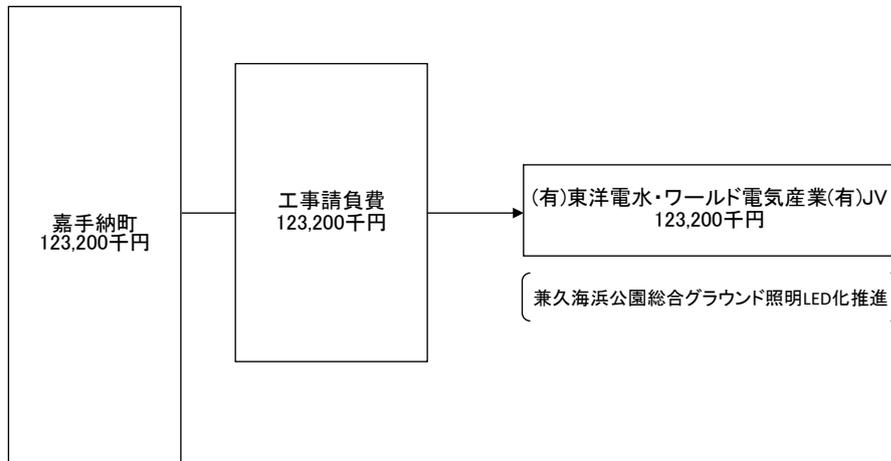
市町村名		嘉手納町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	嘉手納町公共施設省エネ化推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ア		
担当部署名	社会教育課	事業実施(予定)年度	平成30年～令和4年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	地球温暖化防止対策の推進		
事業内容	照明機器の使用によるCO2の排出量を削減するため、公共施設等の照明を環境負荷の少ないLED照明に切り替えた。						
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)						
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	46,156	119,200	31,440	53,330	235,920
		(b) 予算現額	45,478	95,360	41,800	53,185	148,200
		(c) 増減額(b-a)	▲ 678	▲ 23,840	10,360	▲ 145	-87,720
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	45,478	95,360	41,800	53,185	148,200	
	B. 執行済額	45,468	95,360	41,800	53,185	123,200	
	うち交付金充当額	36,374	76,287	33,440	42,548	98,560	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	83.1%	
予算の状況の説明	事業計画どおりに執行を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	兼久海浜公園総合グラウンドの屋外照明器具のLED化	目標	()	()	()	(照明設備のLED化)	
		実績				設置完了	
	【嘉手納スポーツドーム】 R3年度中に切り替える器具による二酸化炭素排出量の削減効果 233台 44,846Kg-CO2/年の削減	目標	()	()	(44,846Kg-CO2/年の削減)	()	
		実績			44,846Kg-CO2/年の削減		
	【嘉手納町葬斎場】 R3年度中に切り替える器具による二酸化炭素排出量の削減効果 7.280t-CO2/年の削減	目標	()	()	(7.280t-CO2/年の削減)	()	
		実績			7.280t-CO2/年の削減		
	R2年度中に切り替える器具による二酸化炭素排出量の削減効果 11施設 1,266Kg-CO2/年の削減	目標	()	(1,266Kg-CO2/年の削減)	()	()	
		実績		1,266Kg-CO2/年の削減			
R1年度中に切り替える器具による二酸化炭素排出量の削減効果 兼久海浜公園ソフトボール場	目標	()	(5,410kg-CO2/年)	()	()		
	実績		5,410kg-CO2/年				
R1年度中に切り替える器具による二酸化炭素排出量の削減効果 嘉手納中学校校屋内運動場	目標	(2,290kg-CO2/年)	()	()	()		
	実績	2,290kg-CO2/年					
達成状況説明	当初予定通り、工事を実施し完了した。						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)	
	R4年度中に切り替える器具による二酸化炭素排出量の削減効果 3,170Kg-CO2/年の削減	目標	()	()	()	()	3,170Kg-CO2/年の削減	()
		実績					1,705Kg-CO2/年の削減	
進捗状況説明	実績としては、照明器具の切り替えにより、兼久海浜公園総合グラウンドで1,705kgの削減により、目標としていた二酸化炭素排出量をそれぞれ削減できたが、目標は達成できなかった。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2削減のため、機器の切替を行ったが、利用者の節電対策が必要である。 ・第2次嘉手納町地球温暖化防止実行計画で策定したCO2削減目標に向けた取組をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次嘉手納町地球温暖化防止実行計画で策定した温室効果ガス(CO2)の排出削減に向けては更に削減努力をする必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・今後も嘉手納町地球温暖化防止計画目標(3,439,027kg-CO2)の達成に向け、町全体で継続してCO2削減を推進していく。 ・日頃から施設管理者で不必要な個所の消灯を徹底するとともに、利用者に対しては不必要な箇所の消灯について呼びかけ、周知を行うことで、照明の点灯時間の削減を行うなど、節電対策の取組を継続して実施する。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
123,200	123,200	98,560	24,640	



資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、契約金額内であるため適正と判断した。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	